序　文

京都医療センターのアニュアルレポート平成29年度版をお届けいたします。わが国の超少子高齢化時代の到来に備え、政府は、在宅医療・ケアへのシフトを含めて、各地域における「包括ケアシステム」の構築を推進いたしております。そのような中にあって、本院のミッションは、地域のみなさまのニーズに応え「高度急性期医療」を担う基幹病院としての機能を大いに発揮することにあります。そこで、この1年間を振り返りますと、本院には緊急の診療を要する患者さんを多数ご紹介いただき、入院治療を要する患者さんが着実に増加し、本院にて質の高い集中的な治療を受けた後、短期間で地域の医療機関に転院されています。すなわち、本院と各病院・診療所との連携はますます緊密となり、政府の目指す「地域医療構想」の理想に近い状況を呈してきております。

さらに、本院は京都府南部における最も重要な基幹病院であり、地域のみなさまのありとあらゆる悩みに対応し、最高レベルの診療と親切なケアを提供できる「高度総合病院」として機能しております。実際、ひとりの患者さんをみますと、例えば、主たる治療対象は大腸がんであるが、同時に高血圧や糖尿病があり、白内障や変形性膝関節症もあるというような場合が多く、いずれもベストの診断と治療を受けることができるという「総合性」がとても大切です。幸いなことに、本院では各診療科・各診療部ともに高度の技能・知識・経験をもつスタッフが揃っており、お一人おひとりの悩みに真摯に耳を傾ける親切な対応を心がけております。引き続き、地域のみなさまが安心して受診できる総合病院としてさらに磨きをかけていく所存であります。加えて、私は、高度医療を提供する病院であっても、できるだけ敷居の低い、地域のみなさまが気軽に集い、憩える場でもありたいと念願いたしております。そのような楽しいイベントも企画しておりますので、是非ご利用いただきたいと存じます。

なお、最後になりましたが、病院経営の現状をご報告いたします。私が着任して2年半が経過いたしました。最初の1年は非常に厳しい状態となり、みなさまに大変なご心配をおかけしましたが、次の1年間では大幅な改善がみられ、さらに本年は順調に経過しておりますのでご安心ください。全国どこの病院もまだまだ厳しい状況が続きますが、引き続き、気を引き締めて臨んでまいりたいと存じます。

今後も本院に対しまして、みなさまの暖かなご支援をよろしくお願いいたします。

院長　小西　郁生